

第3分科会

融合の発想からみえてきたもの

(2階 202研修室)

何かしたいと思うとき、一人でできることには限界があります。仲間が必要です。そして、手を結ぶことでわくわくすることが生まれます。大切なのは、「融合」の発想です。Win-winの発想です。そんな融合の発想から生まれる活動からは、たくさんの可能性がみえてきます。



① つながりから生まれ、広がるまちづくり

14:10～14:40

澤江 健 さん(津和野町 地域教育コーディネーター)

地元のシェフが始めた食育活動「つわのリトル・シェフ」。料理教室と味覚の授業を中心としたこの活動は、学校・保護者・地域を巻き込みながら新しい広がりを見せています。また、体験活動・ボランティア活動支援センター「おじゃみ」が運営する地域子ども教室「つわぶきワクワク広場」は、子どもたちの体験活動の場となる一方で、人を結びつけ、新しい出会いを生む場としても機能しています。合併して1年が過ぎた津和野町で活動する2つの団体の例を紹介しながら、これからのまちづくりについてお話したいと思います。

② 「食」でつながる、「食」で楽しむ、お父さん達の休日

14:45～15:15

岡本 靖史さん(愛知県 親父の休日の会 代表)

「食」には、人と人をつなげる不思議な力があります。それを地域や家庭に使わない手はないという発想から始めたのが「おやじの休日の会」。

自分自身を限定せず、「出来る」、「楽しむ」の発想を大切にしていくと、次から次へといろいろなことがつながっていく不思議…。そして、行き詰まってどうにもなくなると、必ず援助者が現れる不思議…。人との出会いの中から発想が広がっていく面白さ…。これは、始めた人ではないと分からない面白さがあります。

ただ問題は、時間をどのようにして生み出すか…。

③ 生涯学習の企画とネットワーキング

15:20～15:50

湊 照代さん(岡山県 NPO法人ふれあいサポートちやていず 代表理事)

子どもが育つ環境は大人たちの関わりが大きく左右します。父、母、兄弟、祖父母、など家族・友人・先生・地域の人々との関わりがあって子ども達は成長していきます。そんなたくさんの人々がひとりひとりのボランティアや団体としてのNPOとなって活動をしています。様々な子どもの体験をささえる活動実例を紹介しながら、子ども達の未来を考えていきたいと思っています。

④ 指導助言者の進行により、質疑応答や事例の補足説明、協議

15:50～17:00

【第3分科会 報告】

指導助言者： 浜田 満明

島根県出雲市立東小学校 校長



昭和24年、山口県生まれ。教員を経て、昭和58年島根県教育庁社会教育課社会教育主事。平成7年から同生涯学習課班長、その後、課長補佐、仁多町立三成小学校長を経て、平成16年より現職。県教育庁生涯学習課時代に「地域教育コーディネーター制度」と「地域で育むしまねの子推進事業」を立ち上げ、島根県の学社融合仕掛け人として活躍。三成小学校校長時代には、PTAと協働で「斐伊川川下り」などダイナミックな教育活動を実施。現在の東小学校では、全校をあげての1週間の通学合宿や同一中学校区の3小学校の6年生での3泊4日の英語合宿を実施するなど、これまでの学校の枠を超えた教育活動を展開中。

